

事業の背景・目的

小笠原諸島は、海洋島として独自の進化を遂げ、今もなお進化の途上にあり固有種が多いことから世界自然遺産に登録されている。しかしながら、外来種に対しては極めて脆弱で多くの固有種が絶滅の危機にさらされている。植物では環境省により国内希少野生植物について種ごとに保護増殖事業計画を策定し「絶滅危惧種自然状態で安定的に存続できる状態とすること」を目的として施策を行っているがまだ、道半ばである。当会は、清瀬樹木園の管理者として等の栽培を行ってきた経験を生かし、地元や各関係機関と連携しながら自生地に近い父島島内で希少野生植物3種の域外保全に取り組み、種の絶滅を防ぎ生物多様性の保全を図っていく。

事業の内容

本事業は、小笠原諸島の父島に自生し保護増殖事業が策定されている国内希少野生植物9種のうち3種（ムニンノボタン、ウチダシクロキ、ウラジロコムラサキ）を対象に父島内にある森林総合研究所清瀬樹木園内圃場において個体の増殖を行い系統保存をする事で、遺伝的多様性を担保し種の絶滅を防ぐとともに野生復帰に必要な栽培技術の確率と生育条件等の科学的知見の集積を行う。

令和3年度事業

- ・挿し木、播種による増殖事業
- ・圃場実生のモニタリング事業
- ・講演会の開催

種名	挿し木生存数	播種生存数
ムニンノボタン	27系統 84本	6系統 22本
ウチダシクロキ	5系統 7本	2系統 0本
ウラジロコムラサキ	4系統 13本	1系統 6本

令和4年度事業

- ・挿し木、播種による増殖事業
- ・圃場実生のモニタリング事業
- ・新たな播種・植栽（野生復帰）の好適地検討事業

種名	挿し木増殖	播種増殖
ムニンノボタン	35系統 126本	3系統 30粒
ウチダシクロキ	9系統 25本	2系統 3粒
ウラジロコムラサキ	4系統 8本	1系統 10粒

令和5年度事業

- ・挿し木、播種による増殖事業
- ・圃場実生のモニタリング事業
- ・試験植栽（野生復帰）事業

得られた成果

ムニンノボタン、ウチダシクロキ、ウラジロコムラサキの挿し穂及び種子を採取し、域外保全集団の形成に取り組んだ事により、父島島内の圃場における効果的な増殖手法を確立する事ができた。域外保全集団としての役割を果たすためには、遺伝的多様性を担保することが重要と考え、より多くの遺伝子系統を保有出来るよう更なる充実を図った。今年度も目標数に近い個体の増殖作業を行うことができた。ウラジロコムラサキでは、実生から生長過程で起きた問題や課題に対し、工夫を重ねたところ、開花、結実した個体があった。今後は生長した実生が衰退することなく継続して定着できるかが課題と考えている。また、新たな植栽地の好適地を探すため、各関係機関の協力を得て清瀬樹木園内4箇所及び父島島内のフィールド9箇所へロガーを設置し、環境データの収集を行っている。このデータを基に来年度の試験植栽へ向け好適地を検討し、一般の方の目に触れる機会を作っていきたい。今後も、野生個体群を補強するための試験や自生地播種用の種子親として増殖苗を活用し保全再生に寄与する。本事業は、初めて父島島内にて実施する域外保全活動であり、今後の野生復帰に向け大きな進展の一助となると考える。